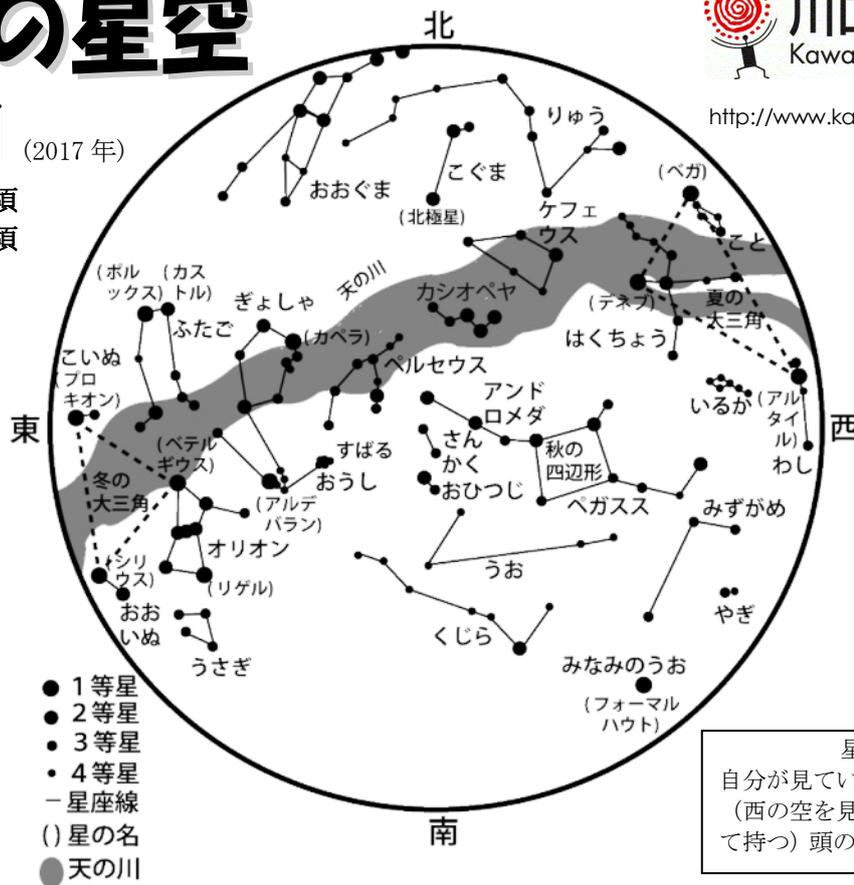


今月の星空

12月 (2017年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



- 月 齢 ○ 満月 4 日、● 下弦 10 日、● 新月 18 日、● 上弦 26 日
- 惑星情報 水星 明け方 南東 (へびつかい座 0 等級) (23 日~31 日まで)
火星 明け方 南東 (おとめ座 → てんびん座 2 等級)
木星 明け方 南東 (てんびん座 -2 等級)

★ 今年最大の満月 (4 日)

地球の周りを回る月の軌道は楕円(だえん)になっていて、月と地球の距離はいつも変化しています。4 日は、地球と月が最も近づく時に満月になるため、見かけの大きさが今年最大となります。ちなみに今年最小の満月は 6 月 9 日でしたが、今回はその時よりも 1 割ほど大きい満月を見ることができます。

★ ふたご座流星群が見ごろ (13 日 20 時頃 ~ 14 日明け方、14 日 20 時頃~15 日明け方)

三大流星群のひとつである「ふたご座流星群」は毎年安定して多くの流星が見られます。また、20 時頃から流星が出現し始めるので観察しやすいのが特徴です。(他の三大流星群の「ペルセウス座流星群」と「しぶんぎ座流星群」は、夜遅くにならないと多くの流星が出現しません)

今年は 14 日 15 時に極大を迎える予想されています。極大時刻が日中であるため、13 日 20 時頃から 14 日明け方と 14 日 20 時頃から 15 日明け方が見ごろになりそうです。

また、見ることができる流星の数は、月明かりの有無にも影響されます。今年は細い月が明け方にのぼってくるだけで、影響はほとんどありません。街明かりがない場所なら、もしかしたら 1 時間あたり 40 個以上の流星を観測することができるかもしれません。よりたくさんの流星を見るためには、街明かりが少ないこと、周囲に高い建物がなく空全体を見渡すことができること、15 分以上観測を続けて暗い場所に目を慣らすことが重要です。

ところで、流星群は、ほうき星とも呼ばれる彗星と深い関係があります。彗星が通った後には、チリの帯(ダスト・トレイル)が残ります。そこを地球が通りぬけると、大量のチリが地球大気に突入し、流星群が起こるのです。それぞれの流星群はその元になった彗星(母彗星または母天体と言います)が決まっています。“ふたご座流星群”の母天体はファエトンという小惑星で、この天体はかつて彗星だったのではないかと考えられてきました。近年の観測で彗星状の尾が見つかり、ファエトンは現在も彗星として活動していることが分かっています。